

製品名: サイクリン B1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09583**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNB1
別名	CCNB1; CCNB; G2/mitotic-specific cyclin-B1
遺伝子 ID	891.0
SwissProt ID	P14635
免疫原	抗血清はヒトサイクリン B1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

背景

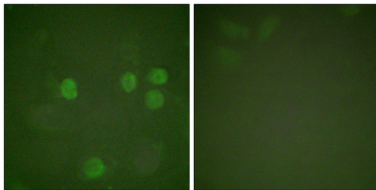
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、有糸分裂に関与する調節タンパク質です。この遺伝子産物は p34(cdc2)と複合体を形成し、成熟促進因子 (MPF) を形成します。恒常的に発現する転写産物と、主に G2/M 期に発現する細胞周期制御転写産物の 2 つの

代替転写産物が発見されています。これらの異なる転写産物は、異なる転写開始部位の利用によって生じます。[RefSeq 提供、2008年7月],発生段階: G2 期に着実に蓄積し、有糸分裂時に突然破壊されます。機能: G2/M (有糸分裂) 移行期における細胞周期の制御に必須です。PTM: 間期に SCF(NIPA)複合体によってユビキチン化され、破壊されます。G2/M 期にはユビキチン化されない。類似性: サイクリンファミリーに属する。類似性: サイクリンファミリーに属する。サイクリン AB サブファミリー。サブユニット: CDC2 タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体 (成熟促進因子 (MPF) としても知られる) を形成する。サイクリンサブユニットは複合体に基質特異性を付与する。HEI10 に結合する。有糸分裂中に触媒活性を持つ RALBP1 および CDC2 と相互作用し、間期にエンドサイトーシス複合体を形成する。、

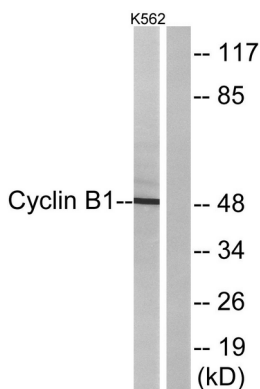
研究分野

AMPK

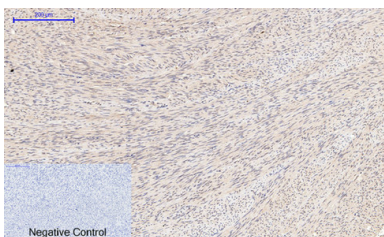
画像データ



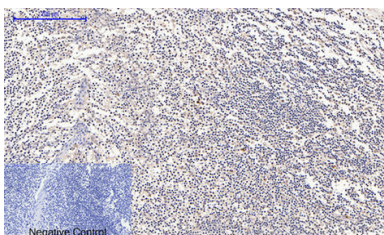
サイクリン B1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



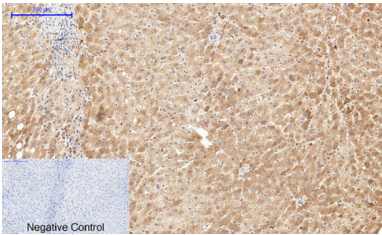
サイクリン B1 抗体を用いた、血清 10% 15% で処理した K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



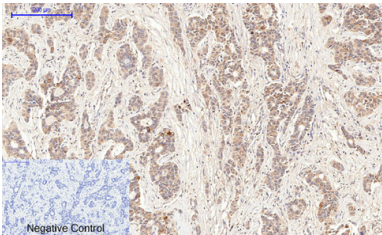
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン B1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



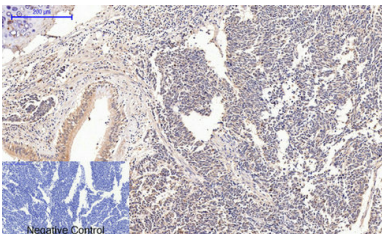
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン B1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



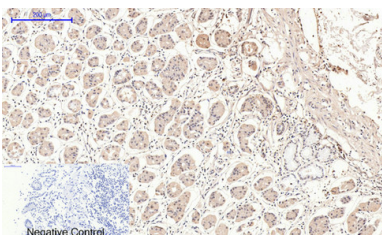
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン B1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



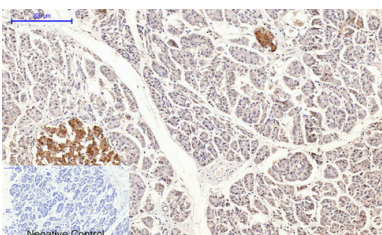
パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン B1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン B1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン B1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン B1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。